

# 躍進する 女性陣

第375回

## トラスト・ウィン

高木春美さん、天利良英さん

天利さん（左）と高木さん



# 会社と社長のため貢献

「アットホームな会社でみんなフレンドリー。ドライバーもいい人たちばかりで、急な仕事が入ったときも嫌な顔をせずに対応してくれるので安心」と話す。「貢献できるよ

う、もっと仕事を覚えていきたい」とさらなるスキルアップに意欲を燃やしている。天利良英さんは、午後5時に高木さんからバトンを受け取る。彼女もパッチワークの生地や材料の販売という「全くの畑違い」からの転身組。「これまでにやったことがない仕事をしてみたい」という理由で同社を志望したという「体育会系」だ。

最後のドライバーが帰ってくるのを迎える重責を担っていることもあり、社長の勧めで運行管理者資格を取得。「家ではもちろん、休憩時間も使って必死に勉強した。社長が応援してくれ、参

トラスト・ウィン（東京都狛江市）では、2人の女性事務スタッフが活躍している。入社4年目の高木春美さんの前職は、教材関連メーカーの営業事務。「同じ事務と言っても運送業との接点はなかったの、聞くこと全てが初めてのことばかり」と振り返る。

「覚えることが多過ぎて、今でも分からないことがあるため、まだ仕事のやりがいを得るまでに至っていない」としながらも、「自分で全て対応できた時には『ああ良かった』と達成感を感じられる」シーンもあるという。

同じ女性として、同社を率いる星恵子社長については「何でもできてすごい」と憧れを隠さない。「アットホームな会社でみんなフレンドリー。ドライバーもいい人たちばかりで、急な仕事が入ったときも嫌な顔をせずに対応してくれるので安心」と話す。「貢献できるよ

う、もっと仕事を覚えていきたい」とさらなるスキルアップに意欲を燃やしている。天利良英さんは、午後5時に高木さんからバトンを受け取る。彼女もパッチワークの生地や材料の販売という「全くの畑違い」からの転身組。「これまでにやったことがない仕事をしてみたい」という理由で同社を志望したという「体育会系」だ。最後のドライバーが帰ってくるのを迎える重責を担っていることもあり、社長の勧めで運行管理者資格を取得。「家ではもちろん、休憩時間も使って必死に勉強した。社長が応援してくれ、参

考書も買ってくれた。これだけしてもらっているのに、『受かって当たり前』という思いだった」。プレッシャーをものともせず、一発で合格。「運送業に関する予備知識が何もなかった」ので受け入れやすかった」と分析する。資格を取得してからは「責任感が増した気がする」とも。

天利さんも、星社長の「女性ならではの細かい気配り」に安心感を抱いており、「ここで働く以上は会社のためになりたい。与えられた仕事をこなすことはもちろん、お客さんとの第一の接点である電話対応に力を入れていきたい」と意気込む。（大西友洋）